

3.5 施設、設備の整備と運用

3.5.1 施設の整備状況

校内の施設整備状況として、まず女子寮の設置があげられる。これは、既存施設の有効利用の観点から、老朽・狭隘化の著しかった男子寮（向陽北寮）について耐震改修も併せた全面改修を実施し、女子寮（清風寮：1,372㎡）へ転換整備したものある。

この整備に関連して、清風寮周辺の屋外環境整備、男子浴室の自動給湯設備の設置、雄風北寮寮室の床改修、雄風北寮他2棟の屋外鉄部塗装改修、さらには学寮食堂の空調機更新を実施し、学寮居住環境の向上を図った。

また、合併教室棟のホームルームの狭隘化解消と教育環境改善のため、一般教室棟3階教官室等の移転・集約整備を行い、84㎡のスペースを確保し、ここをホームルームとして改修整備した。

他に、尚友会館南側の屋外環境整備工事を行い、潤いのある学生広場を確保した。

3.5.2 語学演習室の整備、利用状況

[1]整備状況

- 1 昭和62年度更新の語学演習装置を引き続き利用。
- 2 平成10年度以前に以下の機器を購入済み
 - 50インチ大型TV2台
 - VTR2台
 - 8ミリビデオカセットデッキ1台
- 3 ICカードキーによるLL教室のフリーアクセス化
- 4 Internet活用に備えて、HUBの設置
- 5 平成14年度に液晶プロジェクタ、PC、DVD、DVを設置

[2]利用状況

表3.5.1 語学演習室の利用状況

区	当該設備の 利用授業 科目名	利用対象学科	履修 人数	年間利用時間
	分	1 英語1	全学科（混合学級1年生）	84人
2 英語2A		全学科（混合学級2年生）	86人	120時間
3 英語演習書購読		専攻科（1年生産工学専攻）	14人	60時間
4 英語演習書購読		専攻科（1年電子工学専攻）	15人	60時間
5 中級英会話		5年生（4年選択必修）	40人	30時間
6 独語会話		5年生（5年選択必修）	40人	30時間
計	6科目	全学科及び専攻科1年	279人	540時間

[3]整備状況に関する補足

平成15年度より語学学習教材としてALC社のNetAcademyが導入された。しかし現有設備では語学演習室では利用ができないため、主に電子計算機室第二演習室で活用されてい

る。将来的には語学演習室で利用可能とするように、PCの導入をはじめとした整備が必要である。

[4] 利用状況に関する補足

平成 14 年度よりPCの画面を液晶プロジェクターで大画面に投影できるようになり、internetのWeb上の豊富な教材を即時提示できるようになった。また、DVD及びDVがスピーカーと接続された為、洋画・洋楽・TVドラマ等を教材として利用可能になった。

また、H15年度後期に設置された IC カード入出システムにより、学生による放課後等のLL 教室利用が今後期待される。

3.5.3 電子計算機室の整備と利用状況

高度情報化社会における情報教育の重要性は増加の一步をたどっており、特にインターネット利用の普及により従来のリテラシー教育、プログラミング教育だけでなく、情報化社会に参画する態度を身につけさせることが重要になってきている。また、技術進歩もきわめて速く、日進月歩の状況であり、先端技術を身につけさせることが必要不可欠である。それらを踏まえて、全校的な情報教育および情報処理室の整備などを検討するために、平成 15 年度に情報教育センターを校内に立ち上げた。

今日コンピュータを利用した教育は様々な分野で利用されており、平成 15 年度より語学教育の一環としてALC社のNetacademyを導入し、語学教育にも電子計算機室は利用されている。

現在の電子計算機室のシステムは5年間リース制となっており、平成 13 年 4 月にup-to-dateなシステムに一新した。当電子計算機室は第一演習室及び第二演習室の 2 教室体制になっており、主に機械工学科、生物応用化学科、材料工学科、専攻科生のコンピュータ教育と専攻科生をはじめとした語学教育に利用されている。電子計算機室の業務は平成 15 年度に情報教育センターの管理へ移行した。

平成 15 年度は主に情報基礎教育の見直しと上記語学教育用ソフトの導入及びそれに伴う整備を行った。また、休み時間や放課後、学生が自由に電子計算機室を利用し、自学自習できる環境を整えるため、ICカードキーを導入した。

高等教育IT活用推進事業の一環として、長岡技術科学大学をはじめとした12機関で単位互換協定を締結し、e-learningによる他大学、高専の単位取得が可能になった。

[1] 整備状況

(1) ハード面

- ・ ICカードキーによる「入室管理システム」を導入し、懸案であった学生の時間外利用を可能とした。
- ・ 第一演習室のクライアントPCにUSB音源ボード付きヘッドフォンを導入することで第一演習室、第二演習室とも語学教材を用いた講義やe-learningの受講が可能となった。

(2) ソフト面

- ・ ALC社のNetacademyを導入した。同ソフトは校内LANに接続されており、電子計算機室以外からも利用できるが、本校において全学生が同ソフトにアクセスすることができることは電子計算機室が保障しており、電子計算機室の果たす役割がますます大きくなった。
- ・ 本校における全学的な情報基礎教育の確立のため、教科書の選定とその中の必修項目のリストアップを行った。これらの項目を平成 17 年度シラバスに反映させることで、全学的な情報基礎教育が図られる。